

上智大学短期大学部 様

平成30年度自己点検・評価報告書（中間時）における評価・意見について

令和元年8月 神奈川県秦野市

評価・意見に先立ちまして、日頃より「コミュニティフレンド」や「イングリッシュフレンド」等、教育分野における様々な活動や施設の借用等、幅広く地域に貢献をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

1 「基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果」に対する評価・意見

- (1) ボランティア活動を通じた地域貢献及びそこから学生が得る学びの向上について

外国籍児童等への日本語・教科支援活動については、語学だけでなく、その背景にある文化・生活を知ることにより、理解が進むと考えられますので、学生のボランティア活動及びそれをサポートするサービスラーニング教職員による指導は有意義な取組と考えます。

本市においては、市民が抱える様々な課題や幅広いニーズに対し、多様な主体が行う取組と連携を図りながら、解決へ結び付けたいと考えています。貴学が行っている事前、事中、事後の講座や学生による報告会などの機会を通じて、課題の共有や解決へ向けた取組の検討を行うことができれば、より実践的なボランティア活動の充実及び学生の更なる学びの向上に繋がると考えます。

2 「基準Ⅱ 教育課程と学生支援」に対する評価・意見

- (1) 学生及び社会のニーズや将来展望の把握のための情報収集について

地域社会、父母、受験生等、様々なチャネルから、積極的に情報を収集することは、求められていることを正確に把握するために、有意義な取組と考えます。なお、収集した情報を分析し、情報リテラシーの概念を取り入れ、適切に施策に反映することも重要と考えます。

- (2) 委託化も含めた職員業務の合理化について

限られた人員である職員が、本来の目的である、学生の学習成果の向上に関わる業務に携わる時間を創出できるよう、業務の選択と集中を進めた上で、人員の適正配置を行い、ジョブローテーション及び委託化を進める

ことは、少子高齢化等により、働き手が不足していく社会情勢も踏まえ、有意義な取組と考えます。なお、本市も職員がコア業務に集中できるよう、窓口業務等の委託化を進めておりますが、委託業務が長期間となる場合、年月の経過により、業務内容を職員でも把握しきれずにブラックボックス化し、委託先の硬直化やサービス低下を招く恐れがあります。マニュアルを整備し、委託業務仕様を精査し、定期的な業務監査や評価を行う中で、業務を継承することも重要と考えます。

3 全般に対する意見

様々な課題に対して、様々な対応を行われています。その全てが、建学の精神に基づいた「学生の学習成果を向上すること」に通ずると思われませんが、一度に取組むべき量には限界があります。様々な課題において、対応することによって得られる成果の大小が考えられる中で、優先順位を付け、順次対応していくことも重要と考えます。